

## 「評価結果の概要」

### センターが把握している圏域の特徴

圏域人口： 64,099人  
高齢者人口： 15,791人  
高齢化率： 24.64%（平成30年度 24.16%）

高齢化率は、市全体と比べて低い圏域ではあるが、UR住宅のある、東豊中、北緑丘校区では29.32%、31.43%と高くなっている。そのため、独居で、認知症状や精神症状が発症し近隣とトラブルを起こすケースが増えた。坂道が多く、バスの乗降ができず、買い物に困ることより、市社協、民間主催で4カ所で移動販売が始まった。又、少路校区、上野校区、東豊台校区など、昭和40年代に開発された住宅地では、空き家が多くなり、分割しての戸建て販売が増え、進入路が狭い、入り組んだ宅地が増えている。

### センターの取組方針や特徴

#### 【センターの運営方針】

スカイプを使って朝礼、会議を行い、センター、分室でのケースの共有、行事の確認、意識統一を図っている。緊急対応、職員の休みなどで、空白とならないよう、職員のやりくりをし、いつでも相談が受けられる体制づくりをした。

#### 【特に力を入れて活動している点】

3校区での戸別訪問を継続し、校区福祉委員、民生委員と話しやすい関係の継続に努めている。プランを委託する際や、ケアマネジャーからの相談時には、経験年数やケアマネジャーの特質などを踏まえ、相手の立場にそった対応に努めた。

#### 【活動の中での課題やその解決策】

##### <課題>

認知症状、精神症状の出現から近隣とのトラブルとなるケースが増え、何処まで包括が関わる必要があるのか、苦慮しながら対応した。

##### <解決策>

職員で情報、経過を共有し、担当不在時でも判断ができるように心がけた。  
関係部署と一堂に集まり、情報共有を図った。

### 総評

前回の外部評価の内容を踏まえ、記録の書き方などが改善され、マニュアルも整備されています。また、継続的にgreen labに参加するなど医療と介護の連携を推進しています。今後は、これまで接点の少ない医療関係者等との関係づくりにも力を入れることが望まれます。

## 好事例

薬局と協働して定期的に出張相談会を開催するなど、地域の潜在的ニーズや問題を発見するために積極的に情報収集を行っています。また、介護予防ケアプランの実施状況の把握のため、モニタリング記録表を作成し、改善状況や変化の有無をわかりやすく記載しています。

